

品質と食味を重視した中生系統「鳥系88号」の栽培特性

「鳥系88号」は、品質と食味を安定させるために、5月中旬～6月上旬移植、栽植株数は坪50株程度(15.1株/m²)までの疎植が可能で、施肥は基肥窒素量は10アール当たり5kgを上限とし、穂肥Iは幼穂長1mm時に施用するのが望ましい。

移植時期

両作期とも収量は同等であるが、5月中旬移植は穂数多く、玄米中蛋白質含有率が低く、6月上旬移植は整粒率が高い。

基肥窒素量

基肥窒素量は、Nkg/10aで5kgが上限と考えられます。

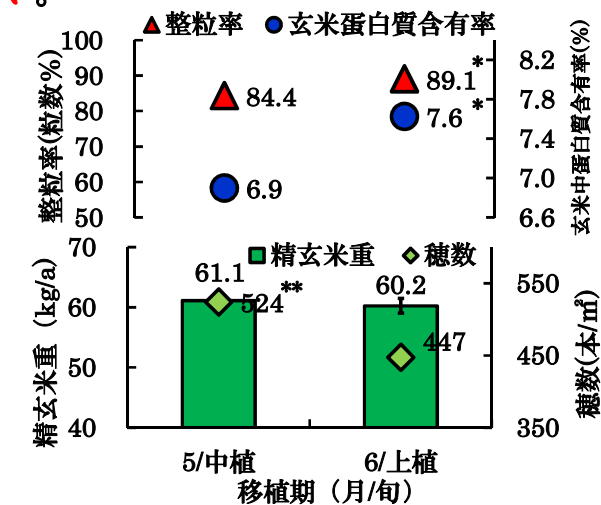


図. 「鳥系88号」における作期反応

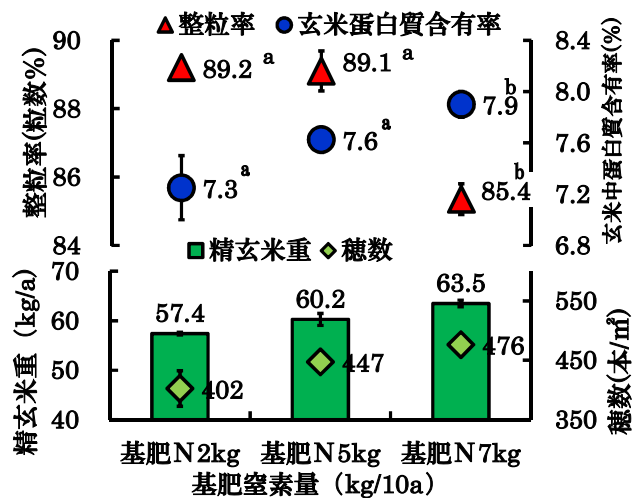


図. 「鳥系88号」における基肥窒素量による収量等の相違

栽植密度

坪50株において、穂数は坪60株と同等であり、収量、玄米中蛋白質含有率、2次枝梗粗率および玄米整粒率は同等で、整粒率は同等に高いです。

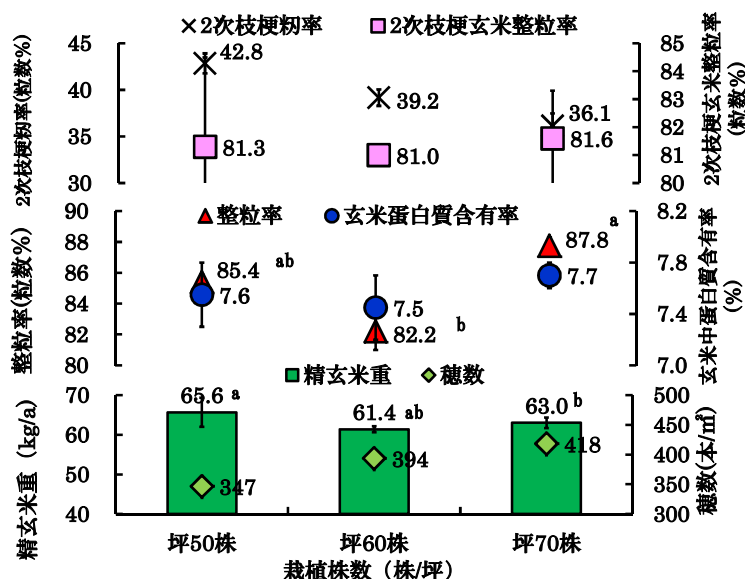
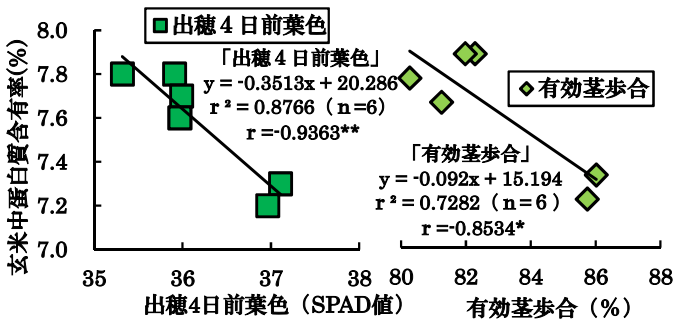


図. 「鳥系88号」における栽植株数による収量等の相違

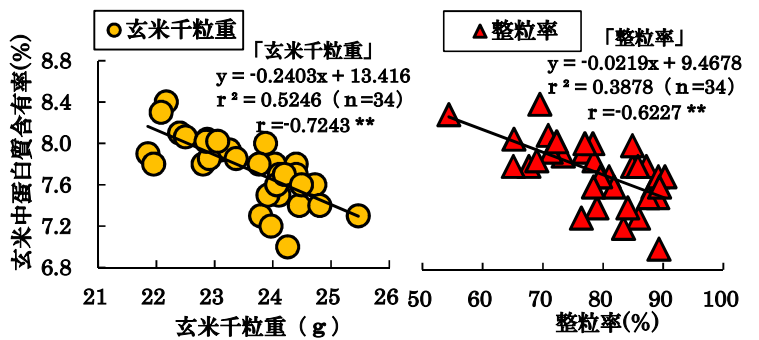


図. 「鳥系88号」の穂と玄米の草姿

玄米中蛋白質含有率を下げるためには、出穂4日前葉色および有効茎歩合を高く維持し、千粒重および整粒率を高めることが重要です。

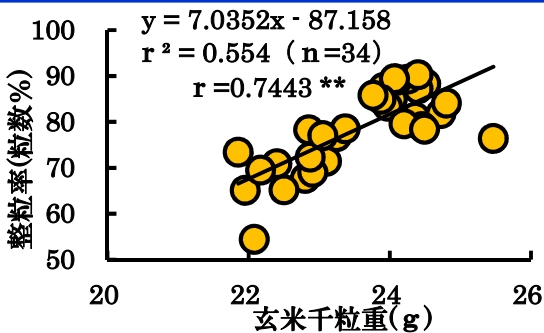


図。「鳥系88号」における出穂4日前葉色および有効茎歩合と玄米中蛋白質含有率との関係



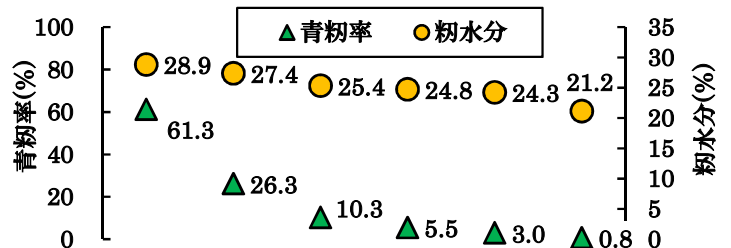
図。「鳥系88号」における千粒重および整粒率と玄米中蛋白質含有率との関係

整粒率は玄米千粒重が大きいほど高くなる傾向です。



図。「鳥系88号」における千粒重と整粒率との関係
出穂後41日(1,031℃)

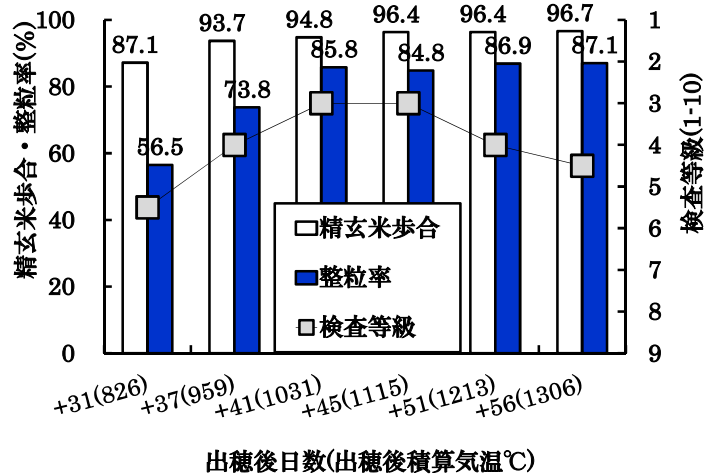
刈取適期は検査等級1等以上の出穂後41~45日で、出穂後積算気温は約1,031~1,115℃、精玄米歩合は約95~96%、青舂率は約6~10%、舂水分は約25%です。



出穂後45日(1,115℃)



図。「鳥系88号」の刈取適期の穂



図。「鳥系88号」における刈取時期による各要素の推移
(坪50株、穂肥 | 幼穂長1mm時施用)

- 栽培希望の場合は、農業改良普及書、農業試験場に相談すること。
- 平坦地(農業試験場)における、移植時期は5月中旬~6月上旬の、栽植密度は15.8~22.7株/m²の試験結果である。
- 粒の充実により整粒率が向上し、食味向上のためには、有効茎歩合を高め出穂前の葉色を適度に保ち、粒の充実および整粒率を高めることが必要である。

問い合わせ先：鳥取県農業試験場 作物研究室

電話：0857-53-0721

※ 本書から転載複製する場合には必ず上記に許可を受けて下さい。